

平成17年度 試験研究（事後）評価整理表

整理表3

試験研究機関名 養鶏試験場

所管グループ 研究開発G

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	実施期間		評価結果	コメント	外部評価アドバイザーのコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	・先端技術等を利用した高度な技術の開発	鶏初期胚操作技術	凍結胚細胞を用いたキメラ鶏作出	凍結胚細胞を用いてキメラ鶏を作出する。新鮮胚移植でのふ化成績（場実績）であるふ化率6%以上を目指す。	純系会津地鶏の凍結胚細胞を白色レグホン種の胚盤葉へ移植してふ化させ、6羽の雛を得た。ふ化率は6.7%となった。現在3羽を育成中であるが、3羽とも体細胞（羽装）キメラを確認した。	14	16	B	胚細胞の凍結・移植、ふ化法の検討により、ふ化率は向上し、生存可能な体細胞キメラの確認できる雛を少羽数ながら得ることができた。	キメラ技術は可能性があり、重要である。孵化率6.7%は低く、研究はなお途上であるが、一定の成果を得たのではないかと。